



■特集1 「The Optimization - Ware」 その新しい歩み



カリフォルニア大学アーバイン校の
ポール・メラージュビジネススクール

弊社オブティマイゼーション事業本部では、2007年7月、米国のUCI (University of California, Irvine、カリフォルニア大学アーバイン校) のビジネススクール (The Paul Merage School of Business、ポール・メラージュ大学院) へ、弊社のオブティマイゼーションサービスの総称である Optimization-Ware (オブティマイゼーションウェア) について、検証・評価を委託した。そのきっかけは、同月の弊社社長仙石のロサンゼルス講演の後、仙石他

数名がUCIを訪問し懇談を行った際に、教授の方々からオブティマイゼーション経営とOptimization-Wareに高い関心を持っていただいた事であった。

同事業本部では「もともと自社の業務改革のために手探りで始めたものであったため、自分たちの進めてきた『モノ』サービスの有効性を確認したく、アカデミックな視点からの評価と分析をお願いした」という。

その後、現地訪問 (本年1月) をはじめメールや電話会議による多くのディスカッションを重ね、2008年3月に最終レポートがUCIから提供された。これにより、これまでは社内用に組み立てていたノウハウ・概念が系統立てて再整理され、外部に提供するサービスとして、より確立されたOptimization-Wareに生まれ変わった。今後はさらにお客様の満足度を向上させるステージへと進むことができるようになった訳である。

自分たちが培ってきたノウハウがサービスとして高度に育ってきた過程は、担当者の中でも大きな自信に変わってきたようだ。

———部内での意識はどのように変わりましたか？

「大変明快になりました。Optimization-Wareという総称で進めてきたサービスを、8つの独立した要素として明確に定義できたことが、まず今回の大きな成果だと思います。」(江本)

「Optimization-Ware全体の構成要素として、Cyber Manual (サイバーマニュアル、以下「CM」)、Performance BreakThrough (パフォーマンス・ブレイク・スルー、以下「PBT」) があります。言葉の使い方、定義の表現方法を整備することを続けてきましたが、今回の委託にあたり、部内で全面的な整備を行い



ビージェイ・ガーバカザニ教授[右]と
ビジャンナンド・チョーダリー助教授[左] UCIにて

ました。その結果と、今回提供されたレポートにより、整備された全体像を共通認識できるようになりました。」(丸山)

「その基礎となるのは[PBT][見える化][CMストラクチャー][CMエンジン][CMコンテンツ][ルールとインセンティブ][活性化サポート][カスタマートレーニング]という8つの要素サービスです。この8つの要素サービスは、これまでいろいろな解釈があったのですが、明確に定義できました。これがいちばん大きな成果ではないでしょうか。」(本間)

そもそもOptimization-Wareとはどういうサービスなのか。

CMというアプリケーションが前面に出てくるように受け取られがちだが、このOptimization-Wareは、決してソフトウェア販売を主力としているのではない。簡潔に表せば「組織の中に人と資源とが効率よく機能する仕組みを作り、業務(経営)改革を進めるお手伝いをするサービス」ということだろうか。



オブティマイゼーション・ウェア
8つの要素サービス

日本ではこのようなトータルサポートを提

供しているサービスはあまり例がないため、今後は定量化しにくいサービス内容をこれまで以上にご理解いただけるよう、説明資料などに改良が必要だと担当者は語った。

Optimization-Wareのセールスポイントをたずねると、「単純な導入だけで済ますことなく、目標を達成するまで、お客様と一緒にサポートします」また、「システムやサービスを提供するだけでなく、それがお客様の社内で最適に活用される場所までお手伝いします」「お客様の組織の現況に合ったものを臨機応変にカスタマイズして対応致します」など、アピールする事、説明したい事はやまほどあり、心の内に抱えている思い入れは、担当者の表情にそのまま表れている。

部署を統括する部長の福田も「社内の実績をお客様へサービスできるということが大きなセールスポイントです。他社のナレッジマネジメントツールを導入している企業は多いが、これだけのコンテンツ数を蓄積した事例はそう多くはないと自負しています。コンテンツが作成され続ける仕組み自体に価値があります。このような運用実績がありますので、興味を持っていただいたお客様には既に導入いただいた実績もあります。こうしたサービスを今まで以上にお客様が活用しやすいようにするため、今回の再定義ができたと思います。」

今後はそれぞれの想いをより高次のサービスへと仕上げていくことが、次の取り組みになるであろう。

お問い合わせは

弊社オブティマイゼーション事業本部 045-930-2515 へ

NPO法人内部統制評価機構 [ICマーク] 取得

NPO法人内部統制評価機構 (ICAO) は、上場企業だけでなく、非上場の中堅・中小企業を対象にした内部統制評価の実施、格付けを行っています。評価の結果、優良企業に対してはその証として「ICマーク」が付与されます。



今回、(株)三技協がオプティマイゼーション・ウェアと呼ばれる社内システムを構築し、業務の効率化と内部統制の両立を図っている点が高く評価され、「ICマーク」を取得いたしました。3月4日のICAOの総会では、認定受賞式が執り行われ、表彰をしていただきました。

WEBサイト リニューアル

3月19日に弊社Webサイトが完全リニューアルしました。是非ご覧下さい。

URL: www.sangikyo.co.jp

※正しく表示されない場合には、「インターネット一時ファイル」をクリアしてください。

出版記念パーティーのご報告

2月26日 (火) 18:30より東京 有楽町の外国人特派員協会に於いて、千葉商科大学学長 島田晴雄様を代表とする15名の発起人の方々のお力添えにより、『仙石通泰著『社員の「1行報告」が会社を変える』出版を祝うタベ』が開催されました。(株)三技協を通じてお世話になっている方だけでなく、著者仙石の高校時代からの友人や、柔道、茶道を通じた方、(株)三技協の先代社長の頃からお付き合いのある方など、様々な分野でお世話になっている方々がお越し下さいました。当日は多くの方々からお祝いのメッセージや、著書についての率直なご意見、ご感想をお話いただき、和やかで心のこもった交流の場になりました。1冊の著書を通じてまた新たな交流が生まれ、皆様に有意義なひとときをお過ごしいただけたことが、著者にとりまして何よりの激励でした。これからも(株)三技協でのオプティマイゼーション経営を多くの方に知っていただくための活動に尽力いたします。



発起人事務局および、当日の進行を務めて下さった一橋大学教授 米倉誠一郎様 (左) と著者・仙石 (右)

中小企業IT経営力 受賞

平成19年度より実施された経済産業省主催の『中小企業IT経営力大賞』において当社が「IT

経営実践認定企業」に認定されました。業務全般にITが活用され、そこから得られたデータを経営上の判断に利用し、企業内最適化または、企業間最適化が図られているか、という審査基準を満たしていると認められての受賞となりました。



↑左から、発起人代表の千葉商科大学学長 島田晴雄様、仙石、参議院議長江田五月様

■特集2 「発掘された歴史、市場より進みすぎた製品 SEEC T-1200」

3月のある日、今年の新入社員の入寮準備を進めるスタッフが倉庫の片隅におかれた段ボール箱を発見しました。その中に眠っていた1台の無線機、それは社内では伝説の無線機と呼ばれる“モノ”、弊社が四半世紀以上前に開発し販売を行なった2m帯FMハンディ無線機「SEEC T-1200」でした。



当時の無線機の主流は、クリスタル (水晶発振器) の交換で使用する周波数を変更したり増減する構造でしたが、弊社開発陣はPLLシンセサイザ*1による周波数選択や選択値を数字で表示する表示管等の装備をハンディ機で実現していました。

当時としても、進んだ設計・製造技術で大変コストパフォーマンスに優れた無線機であったと聞いております。しかし、当時の弊社は有効な販売手段を持たず市場に十分な出荷を半年近く行うことが出来なかったの



です。そしてその性能を世に問う前に有名メーカーより同様な機種が発売され商品力を失って行きます。

T-1200は残念な結果となりましたが、弊社社員のチャレンジと技術力を後世に語り継がれるべき資質を持った“モノ”であることは確かです。歴史の証人はレジェンドの1つとして大切に保存されて行きます。

*-1:PLL (位同期回路; Phase-locked loop)

□次回は、三技協の技術が光った「スコア表示板」についてお知らせします。



編集後記

今回は、三技協での新しい活動内容を中心にお届けいたしました。弊社が[The Optimization Company]と称している理由を少しばかりご理解いただけたら幸いです。次号は5月発行予定です。これからも新鮮なニュースをお届けいたしますので、どうぞご期待ください。A

発行者 株式会社 三技協
発行責任者 丸田力男
住所: 横浜市都筑区池辺町4509
TEL: 045-931-1111 FAX: 045-931-0001
E-mail: info@sangikyo.co.jp
URL: www.sangikyo.co.jp